

AA

171-0014東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

日本ニューズレター No.109

第10回 AA 日本全国評議会開催のお知らせ

テーマ「30周年を迎えて」・サブテーマ「愛とサービスの輪」

2005年2月11日(金) 12日(土) 13日(日)

川崎グランドホテル : JR川崎、京急川崎駅 徒歩10分

来年の9月3, 4, 5日、福岡市でAA日本30周年記念集会在開催される。参加券も発売され、それぞれの地域や地区で徐々に盛り上がりを見せているようだ。

この集会上に全国から多くのメンバー、家族、そして関係者が集まると予想される。AAが社会資源として認識される絶好の機会になると信じている。九州・沖縄地域のメンバーを中心とした実行委員会を早くから立ち上げ、常任理事会と一緒に歓迎の準備を整えている所である。

1975年、東京の蒲田で最初のミーティングが始まってから30年の時が流れた。AAはそのプログラムのとおり、未だ苦しんでいるアルコールにメッセージを届け続け、今、日本全国に900箇所以上のミーティング場を開いている。JSOに代議員の登録が届いているグループの数も420を超えるほどである。2004年のメンバーシップサーベイでは女性の割合も20%以上になったようで、AAのメンバー構成も老若男女を問わず、幅広くなっている。

また、近頃の情報化時代を反映したインターネットやホームページなどからAAの情報を取って、ミーティングに参加したり、サービスオフィスに連絡してくるケースも見られるようになってきている。アルコール依存症の認識も少しずつではあるが社会の中に広がっており、病気としての認識がアルコール依存症からの回復へつながって行くことを、様々な場面における回復者の出現によって証明して行くことが自助グループの大きな責任になると考える。それぞれのメンバーがAAのプログラムを通して、飲まないアルコール依存症として社会の中に復帰あるいは復活したり、新しい道を切り開いたりして、より良く生きて行くことこそ、AAのプログラムが生き方のプログラムといわれる所以であろう。

今、AAのプログラムに触れることができた私たちがしなければならないこと、それが「愛とサービスの輪」をもっともっと大きく広げて行くことだと思う。

自分に起きた奇跡を信じて、まだ圧倒的に多い、アルコールの問題で苦しんでいるけれどAAと出会う機会がなかった人たちにメッセージを届けたいと思う。全国評議会も一つの節目(第10回)を迎える。それぞれのメンバー、グループ、地区、地域の経験から出た様々な意見、提案が評議員に託され、全国の評議員と共にAAの大きな目的に向かって、熱い分かち合いが繰り広げられることを期待したい。

第18回

AAワールドサービスミーティング(WSM)

2004, 10, 23 二人のWSM評議員は元気よく離陸、そして13時間後、ニューヨーク ジョン エフ ケネディ空港に着いた。シャトルバスに飛び乗り、クラウンプラザマンハッタンホテルに到着。金田さんは45階、私は35階の部屋に案内された。窓から見るブロードウエーは、映画スパイダーマンさながらのパノラマで、今日から一週間お世話になるベッドは、身体の小さい自分が5人寝ても余るほどだ。金田さんの部屋はさらに豪華だった。理由は、タバコである。喫煙者への差別か? このホテルはアメリカ・カナダ評議会、常任理事会が行われるAAの定宿との話だ。一泊5万円近くするホテルに7日間、いや他の国の評議員は10日間宿泊する。目まいがするほど気の遠くなる贅沢さだ。このミーティングに参加する分担保金は、前回のスペインで評議員1名\$1100に変更され、それまでの\$2800を負担で

きる国にはお願いすることが決まった。日本は昨年の評議会で、「国際協力献金」から1名分を負担することが採択され、私は参加することができた。WSM開催経費は、約4000万円以上である。当然、不足する経費は、アメリカ・カナダのAAグループが負担してくれているのだ。今回のミーティングで、アジアからは中国が自国の費用負担で参加する連絡があったのだが、残念ながら会場で顔を見ることはできなかった。他に、2カ国もAAメンバーの評議員のビザが下りず、A類(ノンアルコール)が代理参加していた。到着した晩の風呂に入って思った。33歳の時にAAに救われ、1985年の「日本10周年記念集會」で、初めてWSM評議員を選出した時は、私は選ぶ側にいた。中学を出て、就いた職業は八百屋。英語のえの字も分からない自分が、WSM評議員としてニューヨークに来ていた。奇跡がおきたとしか言いようがない。目頭が熱くなった。そして思った。この7日間で得であろう沢山の感動を日本に持ち帰らなければと思った。実際に、今回のコーディネーターのエイドリアン・Bは、「どの国もこのすばらしいミーティングに参加すべきです。

この7日間のミーティングでの体験は、自国語で翻訳されたビッグブックを提供するのと同じくらい効果のある経験なのです。」と話していた。私もそう感じた。昨年のスペインに参加した前期評議員全員が、2年前に会った同じ人かと思うほどに輝いて、自信に満ち溢れ堂々としていた。評議員1名\$1100の負担としたことは正しい選択だった。ほとんどの国が二人の評議員を送っていた。南アフリカも2名の評議員が参加していた。(04, 12/8日経・朝刊記事に、「世界の労働人口の半数が1日/\$2以下で生活。サハラ砂漠以南の南アフリカ、南アジアでは、9割の労働者が1日/\$2以下の生活」と書いてあった。)本当に私たちのAAは、お金がないんです。と、今回のミーティングでの分ち合いでも何度も金銭的な苦勞を話していた。モンゴルAAも同じ状況と聞く。だが、南アフリカ2名の評議員は最も輝いていた。基調スピーチもすばらしかった。以下は、ニューヨークGSOが世界のマスメディアに発表した記事である。

2004年11月18日、ニューヨークにて緊急発表

AA第18回WSM 24 - 28, 2004

2004年10月24日~28日 ニューヨーク州ニューヨーク

AA共同体の第18回ワールドサービスミーティングに出席するため、10月24~28日、全世界のAAを代表する評議員がNYのクラウンプラザマンハッタンホテルに参集した。基調報告者のキース・K(南アフリカの評議員)は次のように語った。「私たちの本来の目的は、AAの飲まない生き方を、それを欲している全ての仲間が手を伸ばせる範囲に届けることです。私たちがここに集まっているのは、まさにそのため つまり国際的なレベルで、いま苦しんでいるアルコールにAAのメッセージを届けるうえで、絶えずより良い方法を見つけ出すためなのです。その人がどこにいても、またどんな言葉を話していてもです」

ワールドサービスミーティングの役目は、アルコールから回復するためのAAメッセージを運ぶ方法に関する経験と知恵の分かち合いのためのフォーラムである。この催しは2年ごとに、ニューヨークと世界のどこかで交代して開催される。2002年のWSMはスペインのオビエドで開催された。エレイン・マックドウエル博士(このミーティングを主催したアメリカ/カナダ常任理事会のA類 ノンアルコール チェアパーソン)は、彼女の歓迎スピーチで評議員に次のように語りかけた。「AAは境界のない共同体であり、2004年のWSMテーマ『一つの言葉、多くの言葉、一つの共同体』に応えるべくその役割を果たす」

マックドウエル博士は、中国、モンゴル、アフリカ各地におけるAAの最近の成長に言及し指摘した。「発展途上国におけるAAの発展は真に驚異的なものがあります。発展しつつあるAAの機構に対して、国際出版基金への献金と近隣の諸国とのスポンサーシップを通じてあなた方の経験を分かち合うことで、以前には希望すら持てなかった遠方のアルコールがいるところにAAが存在することが可能になりました」

AAは男女で構成する世界的な共同体で、共通の問題を解決するために、またほかのアルコールがソプラエティを達成するのを手助けするために、経験と力と希望を分かち合っています。メンバーになるための会費あるいは料金はありま

せん。AAはAAグループ、メンバーからの自発的な献金で支えられており、外部からは寄付は受け取りません。回復のプログラムはAAの12のステップに基づいており、メンバーは公のレベルでは氏名を明かすことはありません。この共同体は非政治的で、ほかのどんな組織とも帰属関係をつくらず、AAの外部のことからについては意見を持ちません。今日、AAは180カ国以上に存在しています。NYでの、このワールドサービスミーティングに参加した48名の評議員は、全国的なオフィスを持つ35の国の地域帯を代表しています。出席者はそれらの国などからの選出された評議員に限定されています。全体会議では、英語、スペイン語の同時通訳のサービスが行われました。

AAは全世界で推定104,589のグループ、200万人のメンバーを擁しています。1969年に第1回のワールドサービスミーティングを提案した共同創始者のビル・Wが言っています。「最初から、AAにおけるコミュニケーションは、有益な発想や考え方の通常の伝達ではありませんでした。苦しみという私たちの共通性があるから、そしてまた、私たちの共通の解決方法は、ほかの人たちへ途切れることなく運ばれているときだけ私たちに効果をもたらすものであるから、私たちの関係の道筋はいつも心の言葉によって担われてきたのです。」

WSM終了後、GSOの見学、ビルとロイスが暮らし、ビッグブックが草稿された部屋とAAとアラノン発祥の地「ステップストーン」を訪ねた。年末年始の休暇に、これらの感動を忘れないうちに報告書作りに取りかかろうと思っている。参加できたこと本当に感謝しています。

WSM評議員：今井

グループの皆様、初めましてよろしく!

今年9月の常任理事会で採用され、9月21日から正職員としてグループの皆様の窓口業務を担当しております水谷と申します。

今回このAA日本ニューズレターに原稿を書く機会を与えられましたので、簡単に自己紹介をさせていただければと思います。

9月21日から正職員として...と書きましたが、それ以前に一昨年(2002年)の4月よりJSOにて会計のアルバイトとして1日4時間ほどのお仕事をしておりました。

今年小宮山さんの定年退職に伴い、受持ちであった業務が私に引き継がれました。

アルバイトの期間中も皆様からのお問い合わせのお電話などに取次ぎとして出させて頂いているうちに、私にも何かJSOでお役に立てることが有れば...と思うようになり、色々考えた末に正職員としてここで働いて行きたいという希望を持つようになりました。

現在私がJSOで行なっている業務内容を具体的にすると『BOX916の購読関連』と『グループ代議員の登録や変更に関すること』そして『会計業務』の3つになります。机の前に座ってBOX916台帳の購読状況を更新してパソコンに入力する、皆様から寄せられる献金やBOX916頒布代の領収書を切り会計ソフトに入力し報告書を作成する、またグループ代議員の登録や変更が連絡されてきたら代議員原簿を整理する、というようなとっても地味な仕事です。でも、そんな中にも嬉しいことがたくさん話っています。例えば献金の振込用紙にちょっと書かれている温かい励まし

のメッセージなどを読ませていただくと、ありがたくて涙が浮かんでしまうようなこともあるのです。

メンバーの皆様それぞれが献金をしてグループのミーティング会場を維持し、またコーヒーなどの備品を用意して運営をしていく中で、J S Oにも献金を寄せてくださることは、感謝の気持ちでいっぱいになります。

本当にいつもいつも温かい愛の手をありがとうございます。また、J S Oには毎日たくさんのお電話が掛かってきます。中には「まだ苦しんでいる仲間」からのものも有りますし、「苦しんでいるご家族やご友人、また関係者の方々」からの場合も有ります。

それらにはその都度各C Oの電話番号などをご案内することになっています。

他にも様々な関係のお電話が掛かってきますが、やはり一番嬉しいのはグループの皆様からのお問い合わせのお電話でしょう。

B O X 9 1 6のお問い合わせやグループ登録などのことは現在主に私が対応させて頂いていますが、皆様の声を聞かせていただくだけで元気をもらうように感じています。

J S Oは3人のスタッフと1名のアルバイト、それに数名のボランティアが定期的にお手伝いしてくれているという、とても小さなオフィスです。

そんな中での仕事ですから、もちろん上記のことだけをやっているだけではありません。時には書籍の注文を荷造りしたり（これは男性スタッフが代わりにやってくれるのに甘えてしまうこともしばしばです。吉村さん、所長、城間さん、ありがとう！）評議会事務局などからの資料等の送付をするためにラベルを出して発送準備をしたりと、とにかく何でもやりましょうというのが仕事といえば仕事なんですね。

思い起こせば、1年のメダルを頂くその日に仲間と共にJ S Oを訪れたのが、初めてのJ S Oへの訪問でした。もちろんその頃の私は、ずっと後になって自分がJ S Oのスタッフになるなど夢にも思っていませんでしたが...

グループに「久里浜病院で行なわれる関係者研修会へのA A書籍展示」というお話がきて、グループとしては受けられないものの、体の空いている仲間数人とやらせてもらおうじゃないかとの先行く仲間の声に、一緒に手を上げたのはそれから数ヶ月経ったあとだったでしょうか。まだ、A Aプログラム自体が私の中で根付き始めたばかりの頃だったと思います。先を歩いている仲間に見守られ、それこそ手を引いてもらいながらのゼネラルサービスのお手伝いの始まりでした。広報という言葉も何も分からない頃だったので、ただ自分がどう助かったのかを一心に関係者の方々に、拙い言葉で話したのを記憶しています。

それから少しずつゼネラルサービスへの興味を持ち始め、評議会の書記のお手伝いをさせて頂いたり、J S Oの最終土日B O X 9 1 6発行日開業の際にボランティアとしてお手伝いさせて頂いたり、そうしてアルバイトで...というご縁が時間と共に育っていったように思います。

そんな形でハイパーパワーから与えられたお仕事です。少しでも皆様のお役に立てたらと思いながら業務をこなしていますが、いかんせん慣れない仕事であることと、山のような仕事量です。

しょっちゅうミスを犯しては、グループの皆様にお詫びをするといったことの繰り返しです。この場をお借りして、ご迷惑をお掛けしてしまったグループの皆様（特に会計さんとB

O X 9 1 6の担当さんでしょうか？）にお詫びしたいと思います。申し訳ありません。

やはり10ステップを使うことの大切さが身に染みますね。

先日広島への出張に同行させて頂いた際に、前にお電話でお話した2人の女性の仲間と実際にお目にかかる機会が与えられました。

初めてお目にかかった方たちなのに、会えた事が嬉しくて、これまた涙が出そうになってしまいました。

これから先、皆様からのお問い合わせやグループが困っていることなどに、ほんの少しでもお役に立てるようになるためには、まだまだ学ばなければならないことがたくさんあると思います。

少しずつ、ひとつずつ、そうしたことをやっていかななくてはとっております。

3人のスタッフと1人のアルバイトの中で一番ソーバーが浅い私ですが、与えて頂いた事を喜んで、そして楽しんで、仕事をしていきたいと思っています。

所長が色々なところでお話する時に「J S Oに寄せてくださる皆さんの声はJ S Oの財産です」というお話があります。一緒にここで働かせて頂くようになって、本当にそうだと私も毎日感じています。

今まで私が時間をかけてグループの仲間やサービスで共に動いた仲間、そしてスポンサーシップから教わった言葉は、「一緒にやろうよ」でした。

ですからどうぞ皆様、どんなことでもお気軽にお電話なりお手紙なり、またメールなりお寄せください。心からお待ちしています。

そして今後とも、どうぞ皆様、末永くよろしく願いいたします。

水 谷

J S Oからもう一つお知らせです。

ボランティアアルバイト(国際協力、英語翻訳など)の募集を行っていましたが、適任の仲間が応募してくれました。

担当理事、J S O所長との話し合いを経て、金沢さん(31歳女性)に上記の業務をお願いいたしました。本人の紹介は次号に掲載する予定です。

「第3回A A日本広報&病院施設フォーラムin 広島」を終えて

去る11月6日、「第3回A A日本広報&病院施設フォーラムin広島」が行われました。県内はもとより、県外からも多くの医療関係者やA Aメンバーにご参加いただき、成功のうちに終えることができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

早めに準備をすすめようと、4月に実行委員会を立ち上げました。早速に前回の開催地、栃木でのフォーラムの資料を送ってもらいました。手探り状態だった私たちに、これは貴重な道しるべとなりました。今でも感謝しています。

それにしても「トラブルは宝」とはよく言ったものです。まず、会場が見つからない。広島市内には数多くのホテルがあるのですが、ことごとく断られてしまいました。世間では11月といえば結婚式のシーズンだそうで、ホテルにとっては稼ぎどき。そんな時期の土曜日に会議などを受け入れては採算が合わないのです。結局、「エソール広島」が会場を受けて下さることになりました。第一関門は何とか突破しました。

第二関門は思わぬところに待ち構えていました。私たちが日程と会場調整に奔走している頃、同じ中四国地域の別の地区のメンバーが、AAメンバー向けのイベントを開催すべく準備をすすめていました。果たしてその日時が、フォーラムの開催日と重なっていたのです。これには参りました。すったもんだで会場を決めた矢先のことでしたし、フォーラムの実行委員には、この地区に所属するメンバーもいましたので、なんとか先方のイベント開催日を再検討して下さるようお願いしました。先方のイベントは毎年秋に開催されており、県内では最大規模のものです。そうした事情もあったのでしよう。残念ながら、こちらの希望は受け入れられませんでした。

AAメンバーの参加者数が全く読めなくなってしまいました。いくら関係者向けのイベントで、「アルコール依存症は回復できる病気です」と訴えても、肝心の「回復したアルコール、AAメンバー」が会場に僅かしかいなければ、やはり実感の乏しいものになってしまいます。

実行委員の胸に不安が交錯するなか、最大の課題に取り組むことになりました。すなわち、医療、行政機関にAAのメッセージを運び、フォーラムに来ていただくことです。

あるメンバーが言いました。「チラシを郵便で送るだけじゃダメだ。こちらから足を運んで、顔を見せて話をしよう。」

回復は足から、メッセージも足から。どちらも腹をくくってかかれば何とかなる。そうでも思わないとやっていけないのが本音でしたが、とにかく広島県内のほとんどの医療・行政機関を訪ねました。車で、自転車で、はたまたバスや電車を乗り継いで、病院の先生やソーシャルワーカー、ケースワーカーの皆様へ会いに行きました。

道すがら、皆が「門前払いをくらうのではないか」との不安を抱えていました。でもそれは杞憂に終わりました。訪問先では、皆様が熱心に話を聞いてくださいました。ほとんどの方が、書物や知識ではAAや自助グループのミーティングを知っていたけれども、実際にAAが中四国で活動していることを見聞きするのは始めてだったようです。初めて「飲まないアルコール」を目の当たりにした方もいたことでしょう。

相手を探していたのは、私たちだけではありませんでした。関係者側も、関心はありながらも、どうやってコンタクトをとればいいのか分からなかったのです。「もっと早く、来てくれりゃー良かったのに」といったところでしょうか。

何よりも今回の収穫は、福祉関係の学校や、その学生の皆さんと知り合えたことです。現在メッセージ先の病院で、お世話になっているPSWの方に紹介していただき、いくつかの学校を訪ねました。ある学校の先生は「当日、会場の人手が足りないようだったら、うちの学生を応援に行かせますよ」とまでおっしゃってくださいました。

当日は6名の学生さんにお手伝いいただきました。彼らの熱意や純粋さには、心が洗われる思いがしました。彼らも、間違いなくAAの友人であるということに気づかされました。今すぐでなくとも、将来彼らが現場に携わるようになったときに、彼らが私たちにとって大きな助けとなってくれるでしょう。そして一人でも多くアルコールから回復する人があってほしい、そう願わずにはいられません。

9月に行われた中四国地域ラウンドアップで、ある仲間の言葉が深く突き刺さりました。

「今度飲んだら命が無くなりますよ、とは言われても、アルコール依存症は回復できる病気だなんて、どこの病院も言ってくれなかった。7ヶ所目の病院で、やっとAAにつながる事ができた。」

アルコールは世間では嫌われ者で厄介者扱いです。病院でだって、行政でだって同じ。飲まない人生を歩もうとしているアルコールなんて想像だにできない。そんな人たちにこそ、今度のフォーラムに来てもらいたい。そのためにも、AAメンバーの力がが必要です。回復したアルコールがそこに居る、それだけですごいメッセージになるはずですよ。

開催まで1ヶ月に迫ってもなお、AAメンバーの参加申し込み者数は20名程度でした。他地域のイベントに足を運び、声かけをしました。ある仲間が「フォーラムは、あくまでも関係者向けのイベントなんだから、メンバーが少なかったら少ないなりにやっていけばいいじゃないか、とも言われた。ただ一人ひとりのステップがあっという間は広島に行くよ」と言ってくれました。顔と口には出せませんでしたが、うれしかったです。

おかげさまで、当日はスタッフ以外に、各地域から72名のAAメンバーが参加してくれました。近隣のイベントに向かう途中に、午前中だけでもと、わざわざ立ち寄ってくれたメンバーも多くいました。

当日の参加者総数は193名でした。(内訳は、関係者75名(病院49、行政13、学校15)家族7名、一般17名、AAメンバー94名(スタッフ22名))

準備期間を含めての実働メンバーは10人程度でした。一人ひとりができることからやっていきました。まさに日々「孤軍奮闘」してくれた仲間もいます。実行委員会も12回開き、そのつど綿密な報告と打ち合わせを行いました。

今回あらためて気づかされたのが「手渡ししていくことの大切さ」です。

会場に来られたのは、私たちが実際に会い、話を聞いてくださった方々でした。フォーラムの告知は地元の新報でも取り上げてもらいましたが、その記事を読んで来られたという方は、ごくわずかでした。

これだけの情報が氾濫する社会にあって、私たちはつい効率の良い方法を選びがちです。でも、私たちは一人ひとりに手を差し伸べ、メッセージを渡していくことの大切さを痛感しました。

フォーラム当日の先生方のお話も意義深く、示唆に富んでいて、仲間だけの分かち合いでは見えてこなかった「アルコール依存症」の実態も伺い知ることができました。

今回、当日に至るまでの間にも色々な経験や出会いをさせていただきました。このような機会を与えてくださったことに感謝します。ラクなことばかりじゃなかったけれど、私たちが頂いた経験と財産を、今後フォーラムが行われる地域に受け渡していきたい。そのためにもこのフォーラムを是非続けてほしいと、心から願っています。

最後に、常任理事会、スタッフ、実行委員の皆様、たいへんお疲れ様でした。

実行委員長 山根

AA日本ニューズレターNo. 109

編集・発行：AA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO) 〒171-0014東京都豊島区池袋4-17-10土屋ビル4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ：<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>